

# ドッジビー基礎データ資料 <2015年版>

---



外へ出よう、体と気持ちを動かそう！

**ドッジビー®**  
**DODGEBEE®**

**DBJA** Dodge  
Bee of  
Japan  
Association

# ドッチビーを体験した **皆さんの声**

## 保育園で

### 未就学児はキャッチが楽しい！ <保育園の先生>

おとなが子どもとボール投げをすると手加減するため、ゆるく円弧を描いて飛びますが、これが捕り難い原因です。ディスクは目線からはずれることなく真っ直ぐに飛んで来るので未就学児もキャッチできて、楽しめます。

## 小学校で

### 男子／女子と一緒に、対等にできる！ <小学校の教諭>

決して無理することなく、皆と一緒に楽しむことができます。「これならできる！」とどちらかといえば運動が苦手な生徒が積極的に参加する例が多く、子ども自身が判断を下して参加する意欲を感じられ、その効果に感動しています。

## 自治会で

### 年齢差が出にくいので、使い勝手が良い！ <自治会の理事長>

男の子と女の子、さらには中学生や大人もいる関係上スポーツ行事は部門分けやら、人数確保など大変苦労していたが、ドッチビーならまとめてみんなでできる。まとめてやることで、年代の風通しがよくなったように思う。

## 介護施設で

### こんな遊び方をしています！ <介護施設の職員>

入居者の皆さんが空いたペットボトルを10本並べてボーリングの要領でゲームをおこなって楽しんでいます。車椅子の方も参加できる、リハビリにもなるようで多いに盛り上がっています。良いことばかりに思えます。

# データ①製品販売の推移（01～14年度）

00年度2万枚でスタート。  
初期は教育現場が中心。  
近年は流通大手が積極的に参入。

- ①学校（小中学校及び養護学校）  
教材販売会社経由、ベルマークポイント交換など
  - ②各都道府県教育委員会・体育施設・団体  
全国の協会、行政機関登録業社、児童館、スポーツセンターなど
  - ③全国スポーツ専門店  
一部、①②納入も含む
  - ④スポーツチェーン店  
スポーツワールド、スポーツオアシス、スポーツデポ、アルペンなど
  - ⑤大型小売チェーン店のスポーツ・玩具売場  
イトヨーカドー、ジャスコ、ロフト、東急ハンズ、  
カインズホーム、ドン・キホーテ、など
  - ⑥玩具チェーン・電機チェーン店  
トイザらス、アチャコ本舗、ヨドバシカメラ、ビックカメラなど
- 各年度は当該4月～翌年3月までの12ヶ月。

年度	販売枚（前年対比）	累計枚数
01年度	約33,000（65%UP）	53,000
02年度	約42,000（27%UP）	95,000
03年度	約52,000（24%UP）	147,000
04年度	約65,000（25%UP）	212,000
05年度	約70,000（8%UP）	282,000
06年度	約120,000（72%UP）	402,000
07年度	約135,000（12%UP）	537,000
08年度	約170,000（25%UP）	707,000
09年度	約185,000（8%UP）	892,000
10年度	約185,000（0%）	1,077,000
11年度	約200,000（8%UP）	1,277,000
12年度	約200,000（0%）	1,477,000
13年度	約200,000（0%）	1,677,000
14年度	約210,000（5%UP）	1,887,000

# データ②ドッジビー人口

---

**体験者はすでに1200万人。(2014年3月末時点 理論値)**

◆2005年度末時点の調査より当時の①～③に基づいた(A)～(C)の合計

①全国の小学校数：23,124校 ②総児童数7,197,460人（文部科学省HPより）③当時の累計発売数量は25万枚

- (A) 備品として導入済み小学校は2,500校以上、約10万枚となり、学校総数全体の10.81%、総児童数にあてはめると、約77.8万人の小学生が体験。
- (B) 小学校を除く学校備品（幼稚園、中学校、体育施設、地域レクリエーションセンター、養護学校など）は約5万枚、1枚あたり10人が遊んだものとして、約50万人が体験。
- (C) レクリエーションとして、一般購入されている10万枚、1枚あたり5人が遊んだものとして、約50万人が体験。

よって、体験者の総合計(A+B+C)は、180万人

◆2013年度(2014年3月末集計)時点での累計発売数量は167万枚(データ①より)

2005年調査時点との比較をすると、6.68倍に伸張しており、その割合を当てはめると、

現在の体験者総合計は、約1200万人となる

# データ③チャル別販売数（07年度データ）

量販店の扱い店舗、量ともに大きく伸張。教育現場は全体の約40%

①	量販店（トイザラス・ジャスコ・イトーヨーカドー・ドンキホーテなど）	45,000
②	スポーツ関係 問屋・小売	50,000
③	学校関係 直販（ベルマーク含む）	10,000
④	雑貨関係 小売（ロフト、東急ハンズ他）	5,000
⑤	教材関係 問屋	15,000
⑥	通信販売 直販	10,000
総販売数		135,000

②	学校からの注文がかなり、あります。	30,000
③	すべてが学校向けです。	10,000
⑤	すべてが学校向けです。	15,000
⑥	学校からの注文がかなり、あります。	3,000
学校向け 販売総数		58,000